

天の夕顔 中河与一文学資料室

信じがたいと思われることでしょう。

信じるということが現代人にとっていかに困難なことかということは、

わたしもよく知っています。

中河文学資料室設置の趣意書

一、昭和四十六年に葉師岳を臨むこの地に「天の夕顔」の文学碑が建立された。それは、当地に縁りのあるこの名作を永遠に記念すると共に、町づくりへの熱い願いもこめられ有志百五十二名の発起に成るものでした。しかし、石碑のみで作家や作品にまつわる文学関係の資料は皆無であり、何とか魂を入れる意味からも縁りの資料が欲しいと熱望していました。

二、「中河与一研究」（笹渕友一編著・有文書院）との出会いで、一人の作家について現代日本の錚々たる文人達による中河与一についての作家論、作品論そして人物論が開示され、与一の作家としての実力とキャラクターの程を思い知らされ、放っておく手はないと強く思い続けてきたのでした。

三、このふるさと神岡に先輩たちの熱い思いで作られ残された文学碑、これを通して更に今と未来に繋げるように今在るものを噛みしめ直し、それを受け継ぎ育てていく心の復活こそが、共に生き抜く為と創造への原点だと考えました。何としてもふるさとへの愛郷心を醸成するよすがの一つにしたかったのです。

これら三つの趣意から一念発起
文豪中河与一先生（当時九十五歳）の誕生日のお祝いを契機に与一先生の懐に飛び込み、以来神岡町との御交誼を願ってきました。お逢いするその都度心を開かれ貴重な作品・資料を頂戴できました。

幸い、この「飛越高原天の夕顔の道」に情報提供施設を建設するに当たり、この地ならではのものとなるよう、与一先生より拝受の品々を展示公開する「中河文学資料室」を併設する運びとなったのです。

改めて、故中河与一先生と久仁子夫人のお力添えに心から感謝を捧げます。

平成九年十一月五日

神岡町

資料室が設置されてから20年以上が経過し、社会情勢が大きく変わりました。そんな中、地元有志の方々の声を受け、この度飛騨市は資料室を山之村牧場内に移転することに致しました。

牧場には、「天の夕顔」文学碑も設置されていることから、来場された方には文豪中河与一氏の「天の夕顔」の世界を存分に感じていただけます。資料室、文学碑と共に、この不朽の名作を将来に亘り伝えていきます。

平成30年10月6日 飛騨市

アクセス



「天の夕顔」文学碑

昭和11年から平成2年にかけて中河与一が揮毫した文学碑は全国に23箇所ある。その内、小説「天の夕顔」文学碑は、富山市有峰の大多和峠（昭和37年8月5日）と神岡町森茂（昭和46年9月25日）に設置されている。

「天の夕顔の主人公がかつてここに庵を結んで幻住す」と刻まれた自然石の主碑と小説の一部が刻まれた御影石の副碑が並んで配置されており、作品中のあき子と龍口との姿を表しているようです。



天の夕顔 中河与一文学資料室

〒506-1104 岐阜県飛騨市神岡町森茂1157番地

天空の牧場 奥飛騨山之村牧場内

お問合せ

飛騨市教育委員会 文化振興課 TEL(0577)73-7496

小説「天の夕顔」



昭和12年9月25日脱稿
昭和13年1月15日発行の「日本論評」新年特集号に発表



自筆の原稿を使った「天の夕顔」限定装丁本



アルペール・カミュからの手紙

中河与一略年譜

明治30年(1897)

2月28日東京上野において、6男1女の長男として出生。

大正9年(1920) 23歳

4月2日林幹子と結婚。

大正10年(1921) 24歳

「新公論」6月号に処女作「悩ましき妄想」(のちに「赤い薔薇」と改題)を発表。

昭和13年(1938) 41歳

1月、「日本評論」新年特集号に「天の夕顔」(昭和12年9月25日脱稿)を発表。

昭和26年(1951) 54歳

1月1日、同人誌「ラマンチャ」創刊。

昭和41年(1966) 69歳

7月号より4か月「経済往来」に「さまざまの女」連載。

10月10日「中河与一全集」(全12巻)角川書店刊、配本開始。

昭和51年(1976) 79歳

12月3日 勲三等瑞宝章を受ける。

昭和55年(1980) 83歳

10月26日幹子夫人死去、85歳。

昭和57年(1982) 85歳

9月26日矢穂久仁子との結婚披露宴。

平成6年(1994) 97歳

肺炎のため、神奈川県箱根町にて死去。



展示の様子

中河与一の書

中河与一は作家のほかに、書家として展覧会を数回開催している。



寄贈請願署名を受け取った様子



中河与一の横顔

作 家

文芸春秋初期の同人、主な作品に「氷る舞踏場」、「女礼」、「求道女」、「鏡に這入る女」、「恋愛無限」、「天の夕顔」、「失業の庭」、「探美の夜」、「万葉の精神」、「超一流の人々」、「天の夕顔前後」がある。

美術品コレクター

絵画の造詣が深く画家との交流は多い。ピカソ、ミロ、デュフィ、谷文晁、奥村士牛等の絵画のほか、中国の仏像、陶磁器、版画、書等を持つ。

登山家

山を愛し、全国の多くの山に登っている。なかでも北アルプスへは度々訪れている。
昭和34年日本山岳会会員となる。

カッパ村村長

昭和50年3月16日、河童の伝説に興味を持つ人々の集まりのカッパ村は、ルポライター大野芳氏の提唱で作られ、中川与一が村長に推挙された。

書 家

「喜寿記念書展」等の書展を開催している。

歌 人

男性歌人中河与一としての足跡も大きい。大正11年歌集「光る波」、昭和51年「中河与一全歌集」刊行。

能楽師

昭和28年能入門。人間国宝松本謙三に師事し、水道橋能楽堂で独吟している。



河童の焼き物